

総務文教常任委員会日程

平成27年 8月10日

午後 4 時 分

第 1 委 員 会 室

あいさつ

委員長

1 開 会

2 所管事務調査

(1) 加東市の公共交通を考える市民ワークショップについて

3 その他

4 閉 会

加東市の公共交通を考える市民ワークショップ（第1回）の開催結果について

1. 日時・場所

平成27年7月26日（日） 9時30分～11時30分 社公民館 研修室

2. 参加者

4グループでグループワーク（1グループ4～5人）全18人
概ね地域ごとにグループ分け

3. 第1回テーマ

「加東市の公共交通の良いところ悪いところ」

4. 主な意見

<良いところ>

- ・中国道が通っているため、ハイウェイバスが利用でき、大阪・神戸への移動は便利。
- ・道路が整備されているため、渋滞も少なく自家用車の方にとっては不便を感じない。
- ・福祉タクシー利用券の助成があり、申請者には助かっている。
- ・鴨川、米田では自主運行バスが運行しており、高齢者の貴重な移動手段として利用増。
- ・JRが通っていて通勤通学に多く利用されている。

<悪いところ>

- ・最寄りの駅、バス停までが遠く、交通空白地となっている箇所が多い。
- ・昼間は路線バス、JR共に本数が少なく不便。
- ・高速バスの停留所の駐車場が少なく、利用がしにくい。
- ・高齢者等には、通院・買い物における移動手段が無く不便である。
- ・自主運行バスは、運転者の確保や事故対策等が今後の課題である。
- ・福祉タクシー利用券は一律金額の交付であり、目的地への距離による地域格差がある。

<まとめ>

- ・地域によっては、JR、路線バス、ハイウェイバスなど交通網が充実していて便利であるが、多くの地域は公共交通というのは主要道路沿いしか通っていないため不便。
- ・自主運行バスや福祉タクシー利用券助成などの制度は役立っているが課題も多い。
- ・鉄道、路線バス共に最寄りの駅、バス停までが遠いことと、本数が少なく（特に昼間）不便。
- ・高齢者等にとっては、通院・買い物における移動手段の確保が必要。
- ・加東市においてもコミュニティバス、デマンド方式のバス・タクシーなどが必要ではないか。

<開催風景>



参加者自己紹介



加東市の現状説明



グループワーク



グループごとに発表

5. 次回以降予定

現状の課題を抽出した上で、様々なニーズを出し合ってもらった。次回以降はコスト面等も含めて、その改善点や新しい方策を考え、行政、市民、事業者のそれぞれの役割を考えていく。

今後のグループワークをより発展させていくために、次回は大阪大学特任教授の土井勉氏に講義をしていただく場を予定している。

第2回 8月23日(日) 13時30分～ 社公民館 研修室

講師： 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
まちみちコミュニケーション研究室 特任教授
一般社団法人システム科学研究所 上級研究員
土井 勉 氏

市民の移動のために市が負担した費用（平成25年度）

事業名	金額	備考
福祉タクシー事業	22,183,000	タクシー券印刷製本代、タクシー代
路線バス補助金		
補助金	19,480,102	7路線
県補助金	6,371,000	
差引	13,109,102	
自主運行バス		
きよみずバス車両購入	3,674,989	登録料等含む
地区委託料、消耗品等	1,207,140	
	4,882,129	
遠距離通学定期助成	1,284,755	
スクールバス等運行	7,792,590	運行委託料、車両リース料

計 49,251,576 円